

1. はじめに

本研究では、日本語学習者の会話における「修復」の特徴について、統語的要素の習得の観点から分析を行う。会話の修復については、さまざまな分析が多分野の視点から行われてきた。その多くは、会話の修復の特徴についてタイプ分け、構造、会話内で起こる場所についての研究がされてきている。Fox, Hayashi and Jaspersen (1996)の研究では、統語的關係と修復についての關係を言語文化に基づく特徴の違いについて研究しているが、修復に関して、統語的な特徴について研究するものは少なく、修復の統語的な特徴とその習得についての關係についての研究はほとんどなされていない。本研究では、初級レベルと上級レベルの日本語学習者の会話に現れる修復を観察し、統語的な特徴の分析をする。さらに、どのように習得が起きているのかについて、明らかにしたい。

2. 会話の修復

2.1 会話分析の立場から最初に階差の修復現象について論じた Schegloff, Jefferson and Sacks (1977) によると、修復 (repair) とは、発話の産出・聞き取り・発話理解において生じたトラブルの修復を指すものとして用いられており、「訂正 (correction)」とみなされる傾向が強かった。修復の対象となるものは「修復されるべきもの (repairable)あるいは「トラブル源(trouble source)」と呼ばれ、聞き手が、そのトラブルに対しての気づきを表明することを「修復開始 (repair initiation)」と呼び、それを受けて、当該トラブルを解決することを「修復 (repair)」であるとしている。

2.2 会話の修復構造

主に次の3つから会話の修復連鎖が成り立っているとしている。

- 1) trouble source
- 2) repair initiation
- 3) repair completion

また、誰が repair を開始するか、また誰がトラブル源を修復するか、といことに焦点を置き、大きく分けて2つに分類し(i) self-initiated repair (ii) other-initiated repair) 以下の4つのタイプ分けをした。

- (1) Self-initiated self-repair
- (2) Other-initiated self-repair
- (3) Self-initiated other-repair
- (4) Other-initiated other-repair

2.3 修復の場所

Schegloff et al.(1977) によると、修復開始位置として、以下の4つの場所に分け会話の修復連鎖について

詳細に分析を行った。

- (1) Within the same turn
- (2) At a transition space
- (3) In the next turn (3-1) (delayed other-initiation of repair)
- (4) After the next turn

さらに、話者移行 (turn transition) との関連から、他者修復よりも自己修復の方が、連鎖の中でよく発生しやすいといことを述べている。

2.4 修復の統語的特徴

会話の修復については、さまざまな分析が多分野の視点から行われてきた。その多くは、会話の修復の特徴についてタイプ分け、構造、会話内で起こる場所、またどのように修復が行われ会話が形成されるかについての研究がされてきている。Fox, Hayashi and Jaspersen (1996)の研究では、統語的關係と修復についての關係を言語文化に基づく特徴の違いについて研究しているが、その他修復に関して、統語的な特徴について研究するものは少なく、修復の統語的な特徴とその習得についての關係についての研究はあまりされていない。また、第二言語習得の分野では、会話の repair が教育場面の会話でどのように起こっているか、第一言語の会話とどのような違いがあるか、また教師の側の立場からどのように会話を進めているか等の観点から分析が行われている。しかしながら、教師と生徒など教える側と学ぶ側との会話の分析や特徴について焦点が置かれており、第二言語の学習者自体の会話内での修復の統語的特徴やその習得についてはあまり触れられていない。

2.5 研究目的

本研究では、初級レベルと上級レベルの日本語学習者の会話に現れる修復を観察し、それぞれが第二言語を話す際に使用する修復の統語的な特徴の分析をする。さらに、2つの学習者レベルの修復の統語的特徴を観察・比較することで、どのように習得が起こっているのかについて明らかにしたい。

3. 会話データ

本研究で使用する会話データは、日常よくあるテーマについて 2 人ペアになり自由に話してもらうという設定で録画をし、書き起こしたものを使用する。会話データは、英語母語話者に学習中の日本語で指定テーマについて話をしてもらったが、初級日本語話者と上級者の両方の会話を収録した。そのうえで、会話の修復の統語的特徴について観察をし、初級者と上級者の会話を比較することで、修復の習得について分析をする。特に、日本語母語話者の会話を習得の度合いの観点から比較対象の会話とする。

3.1 会話データ収集方法

本研究データ収集で、英語を母語とする 12 人の日本語学習者に協力を仰ぎ、2 人ペアで指定した日常によくあるテーマについて、学習している日本語を使い自由に話してもらうというやりとり (5~7 分) を録画し、文字化し、会話データとして使用する。

3.2 学習者の日本語レベル

本研究では、英語を母語とする外国人で日本語学習中の研究協力者に会話を行ってもらったが、日本語のレベルを学習歴や、日本滞在歴などから、初級・中級・上級の3つに分け、会話を収集し分析対象とした。

3.3 分析方法

本研究では、英語母語話者が日本語で話すという設定で、3つのレベル(初級者・中級者・上級者)の会話において、統語的特徴がどのように表れているか、また現れる場所について調査し、日本語母語話者とのデータ比較により、会話の修復の統語的要素の習得がどのようになされるかを分析をする。さらに、統語的特徴と習得の関連性について明らかにしたい。

4. 分析

4.1 日本語初級学習者による修復の統語的特徴

(例 1) Basic level speaker

S1: un.. Watashi **ha**watashi **no** kazoku ha takusan tabemono wo tabemasu...

(例 2) Intermediate level speakers

S5: jyuhasai, chigau, koukousei no Toki kara zutto, kyoumi **ga** motte ru. Elissa ha? (no self-repair)

S6: ano, watashi ha ano yama nobori to suno-bo-do.

(例 3) Advanced level speaker

S9: demo sore **ha**, sore demo, ano sou iu club **de ha** mou kinen ni natta.

(例 4) Basic level speaker

S2: ah.. Jyaa, tabe ma **sen**, a tabe **masu ka**?

<<self-repair by changing the inflection form of a verb>>

4.2 会話の修復の特徴(中級学習者)

(例 5) Nominalization of a verb (intermediate level speaker)

S6: watashi mo.... watashi mo kaku **ga** suki, kaku **no ga** suki.sou.

(例 6) Clausal recycling by intermediate level speakers

S6: ano, hard drive ga iri kon de naka tta. Enter it.

S5: **un??**

S5: **pasokon ga** **hard drive wo** **yoma na kata.**

S O V

4.3 他者による会話の修復

(例 7) Interaction by basic level speakers

S2: ah..obasan to ojisan ha... tabemono wo.. **How to say 'bring'??**

S1: ah... **motte ima su.**

(例 8) Other-initiated other-repair by advanced level speakers

S11: ano sou iu club demo mou kin-en ni **na tta**.

S12: mou kin-en **ni naru**.

S11: **nari masu**. Sou.

5. 考察

5.1 初級日本語学習者による修復の特徴

- (1) self-correct by changing the case particles.
- (2) self-correct by changing the inflection form of a verb.
- (3) self-correct by changing the tense of a verb.

5.2 中級日本語学習者による修復の特徴

- (1) nominalization of a verb
- (2) clausal recycling

5.3 上級日本語学習者による修復の特徴

- (1) more complex case systems
- (2) other-initiated other-repairs

6. まとめ

本研究では、英語母語話者の日本語の習得レベルにより3つに分け、それぞれの話者でどのような会話の修復の統語的特徴がみられるかを分析した。上記に示したように、初級・中級・上級で、会話の修復に関しさまざまな統語的な特徴が見られた。また、初級者と上級者の会話を比較することで、特に日本語初級者によく見られる特徴が複数見られ、上級レベルの日本語話者になるほどその特徴が減ることから、日本語の習得にしたい、統語的な特徴を観察することで、「会話の修復」という言葉の使い方などの語用論的特徴も習得しているということが分かった。

本研究では、さらに初級者と上級者の会話内で使う統語的修復の要素について比較しながら、習得がしやすいもの、難しさがあるものについて分析をした。

本研究では、会話の修復について統語的な要素の習得について分析をすることで、どのように習得が起こっているか、習得の難しさについて明らかになったことを、第二言語習得への応用として、日本語学習者への教育に役立てたい。

参考文献

- Drew, P. (1997). "Open" class repair initiators in response to sequential sources of troubles in conversation. *Journal of Pragmatics*, 28 (1), 69-101.
- Fox, B., Hayashi, M., and Jasperson, R. (1996). Resources and repair: a cross linguistic study of syntax and repair. In E. Ochs, E. A. Shergloff & S. A. Thompson *Interaction and grammar* (185-237). Cambridge: Cambridge University Press.
- Jefferson, G. (1983). On Exposed and Embedded Correction in Conversation. In Button, G. and J. R. E. Lee (eds.) *Talk and Social Organization*, Clevedon/Philadelphia: Multilingual Matters, 86-100.
- Shergloff, E. A., Jefferson, G., and Sacks, H. (1977). The Preference for Self-Correction in the Organization of Repair in Conversation, *Language*, 53 (2), 361-382.